

う判断は、そういう知見ですとか経験がない人には無理なんだと。だから情報システムに通じている人じゃないと、今何が起きてるのか、次は何が起きるのか、これが分からない。見えてこないんですよ。たまたま私、SARSの経験がありましたので、初期対応には、ある程度自分なりに考え方は整理できましたけども。ぜひ危機管理というのは、もうこれから本当に複雑な危機管理が求められますから、ぜひ情報、デジタルに通じた専門の人材を配置していただきたいと思います。

以上、要望で終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、滝川議員の質問が終わりました。

担当入替えのため15時20分まで暫時休憩といたします。

〈午後3時11分 休憩〉

〈午後3時20分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。〔10番 保坂 悟君登壇〕

○10番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、子育て支援について。

(1) 不妊症・不育症治療の支援拡充について。

公明党は1998年以降、国や地方で保険適用を求めており、9月27日の公明党全国大会で菅首相が「公明党の皆さんから不妊治療の助成拡大や保険適用に強い要請を受けている。できるだけ早く保険適用ができるようにしたい。それまでの間は、助成金を思い切って拡大したい。」と挨拶している。市においても支援拡充の考えはあるか。

(2) 出産一時金の実態に合わせた対応について。

出産費用の全国平均額が、50万円を超えている報道があった。現行の42万円から50万円に増額する考えはあるか。

(3) 子ども誕生祝い事業の拡充について。

9月定例会で、コロナ対応として今年度に限り2万6,000円を増額し、5万円としたが、新年度より5万円とする考えはあるか。

(4) 特別定額給付金の対象外となった新生児への給付について。

新型コロナの第3波を受け、新生児の家族の精神的・経済的負担の軽減が必要と考える。

市内経済振興を考慮し、今年度に限り新生児1人につき、商品券7万4,000円を給付す

る考えはあるか。

## 2、糸魚川市公共施設等総合管理指針 個別計画（スポーツ施設）について。

### (1) 能生体育館について。

使用実績の伸びを考慮し、ギャラリーにおけるランニングで足や膝への負担軽減を行う、衝撃吸収材による修繕の考えはあるか。

### (2) 能生球場について。

① 能生中学校野球部の今年度の活躍や、施設の使用実績の伸びを考慮し、波打っている内野の修繕を行う考えはあるか。

② トイレの洋式化と手洗い場の改善を行う考えはあるか。

③ グラウンド外側の1塁側通路にひび割れと段差があり、転倒によるけがが心配されるが、改修の考えはあるか。

### (3) シーサイドバレースキー場の今後について。

① 昨シーズンは稼働日ゼロという前代未聞の年となった。それを踏まえて今後の展望について、思い切ったプランはあるのか。また、市と指定管理者では今後の取組について、考えは一致しているか。

② 借地代1,000万円を指定管理者の支払いとしているが、借地について市が買い取るか、直接借地代を支払う形にできないか。

③ キャラクター戦略で「ポケモン」等とコラボする考えはあるか。

## 3、生活弱者への支援拡充について。

### (1) 除雪、除草、買物、通院、制度利用等の支援拡充について。

① 超高齢化に備え、生活相談窓口を設置する考えはあるか。

② 異業種連携による生活支援会社（公社）の設立と、地域内通貨（商品券やデジタル通貨）を組み合わせた取組を検討する考えはあるか。

③ ドライブレコーダー設置補助等の制度周知や支援はあるか。

### (2) 広報・おしらせばんの配布方法について。

① デジタル派とペーパー派の希望調査を行う考えはあるか。

② デジタル派の方たちがホームページでの閲覧希望をした場合、費用は変わらないと考えるが、どのような課題や問題があるか。

### (3) 公共施設等のバリアフリー化について。

① 歩道等の段差解消の進捗状況は、どうなっているか。

② 公共施設の階段の手すりの有無や、安全性の点検を行っているか。

③ 車椅子用段差解消機や階段昇降機の設置基準は、どうなっているか。

### (4) 認知症による徘徊対策について。

① 徘徊センサーの周知や利用度は、どうなっているか。

② 2次元（QR）コードつきシールの導入の考えはあるか。

## 4、新型コロナウイルス感染症（第3波）対策について。

### (1) 医療機関の負担軽減策について。

① 市内で軽度感染者受入体制の強化や、施設の拡充はあるか。

- ② 市内宿泊業者との連携協定を拡大する考えはあるか。
- ③ 自家発電機能と空調つきプレハブ等の導入の考えはあるか。
- (2) 飲食店や宿泊業者への支援について。
  - ① 新しい飲食スタイルの支援への考えはあるか。
  - ② 異業種連携による新たな事業継続の支援策はあるか。
  - ③ フードバンクや食品ロスアプリ等の導入支援はあるか。
- (3) 動物愛護活動の支援について。
  - ① 災害時の同行避難における、感染症対策の周知強化の考えはあるか。
  - ② 不妊・去勢手術や、譲渡会等の感染症対策の支援の考えはあるか。
- (4) 高齢者等のリモート生活への支援について。
  - ① スマートフォンやタブレット等の普及講座や、使い勝手のよいアプリを紹介する説明会等を行う考えはあるか。
  - ② 携帯料金値下げに伴い、必要なサービスの取捨選択や料金設定等の相談窓口を、官民で設置する考えはあるか。

5、糸魚川駅北まちづくり戦略について。

- (1) 駅北エリア全体のW i - F i 環境整備について。
  - 仕事、学習、遊びが自由にできる空間にする考えはあるか。
- (2) 分散型施設の役割について。
  - ① 行政部門として駅北広場キターレ、駅北復興住宅、糸魚川地区公民館、公園、にぎわいの拠点施設（子育て支援機能）が受け持つ内容を、どのように決めるのか。
  - ② 民間部門として事業所、民家、空き家、空き店舗が受け持つ内容はどのように決めるのか。
  - ③ 道路や雁木部門として、人々がまち歩きするための仕掛けをどのように決めるのか。そのときの主体者は決めておくのか。
- (3) 市民自らが主体者となることへの動機づけについて。
  - ① 「誰一人取り残さない」というSDG s の理念を置き、SDG s を実践するまちにする考えはあるか。
  - ② 人を集めるのではなく、人が勝手に集まる魅力を真剣に考え、実験証明するまちにする考えはあるか。
  - ③ デジタルとアナログの体験ができるまちにする考えはあるか。

6、産官学による新しい観光と魅力づくりについて。

- (1) 駅南（アルプス口）通りの活用について。
  - 駅北エリア同様、駅南エリアを生かす考えや計画はあるか。
- (2) 鉄道を生かしたまちづくりについて。
  - ① 「機関車トーマス号」で有名な大井川鐵道のように、乗りたくなる鉄道を目指し、思い切った取組を行う考えや計画はあるか。
  - ② 平成26年12月一般質問で、無人駅の活用について質問しているが、オフィスやカフェ、モノづくり工房にする考えはあるか。

(3) (仮称)「フォトフレーム写真コンテスト」の開催の考えはあるか。

それはオリジナルフォトフレームを制作し、それを使った写真や動画をSNSにアップしてもらい、目的は市の景色や情報の拡散であります。

(4) 能生地域の海洋系サテライトキャンパス化について。

能水商店、高校生レストラン、近大ノドグロ養殖、部活動等の実績を生かし、国・県を巻き込み、各種大学の関連施設の整備や学術協定を結び、積極的にキャンパス化する考えはあるか。

(5) 世界ジオパークの体験観光ビューローの創設について。

市の観光施設を一括管理して、スタッフの通年雇用をする考えはあるか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(中村 実君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、現在、国で協議されており、国の動向を見ながら対応してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、国民健康保険において国が示す基準額で支給してまいります。

3点目と4点目につきましては、本年度、子ども誕生お祝い金事業を拡充いたしました。

2番目の1点目につきましては、体育館の床材と同等の衝撃吸収材を使用いたしております。

2点目につきましては、状況に応じて必要な修繕等を順次行ってまいります。

3点目の1つ目につきましては、ふだんから指定管理者と協議を行っているところであり、スノーシーズンの営業に向け、レンタルスキーとスノースクールの補助を拡充し、家族で気軽に利用できるスキー場として誘客に努めてまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、株式会社シーサイドバレーが会社設立の際、借地契約を受け継いでいるものでありますが、市との契約にすることが望ましいと考えており、協議を進めております。

3つ目につきましては、スキー場に限らずキャラクターの活用は誘客に有効であると考えており、今後も研究してまいります。

3番目の1点目の1つ目につきましては、地域包括支援センターが相談業務を担っております。

2つ目につきましては、現在のところ取り組む予定はありません。

3つ目につきましては、おしらせばんに掲載するとともに、引き続き市のホームページへの掲載や事業者への周知を行ってまいります。

2点目の1つ目につきましては、今後必要に応じて実施の検討を行ってまいります。

2つ目につきましては、デジタルでの閲覧も可能となっておりますが、配付方法などの課題があると考えております。

3点目につきましては、障害者団体や推進協議会の意見を聞いて、危険度や緊急性を考慮の上、対応を進めております。

また、バリアフリー法や県・福祉のまちづくり条例により、用途や規模により設置基準が設けら

れております。

4点目の1つ目につきましては、地域包括支援センター等が周知を行っており、事業開始から延べ7人、現在3名の方が利用されております。

2つ目につきましては、認知症の方やその家族が利用しやすく、効果的な見守り方法を研究してまいります。

4番目の1点目につきましては、県において病床、宿泊療養施設ともに確保されていることから、いずれも現段階では拡充・導入の考えはないと伺っております。

2点目につきましては、今後の状況に応じて対応を検討してまいります。

3点目につきましては、感染症対策についての情報を提供するなど支援を行ってまいります。

4点目につきましては、国において来年度から携帯電話販売店などにデジタル活用支援員を配置することから、当市も民間事業者と連携し、情報格差の解消に努めてまいります。

5番目の1点目につきましては、民間と連携して整備拡充に努めてまいります。

2点目の1つ目と2つ目につきましては、まちづくりや地域交流コミュニティづくり、公的サービスの提供など、駅北エリアにおいて必要とされる施設を運用も含めた公民連携の中で、空き家活用や施設整備を進めてまいります。

3つ目につきましては、利活用は公民連携で進めるものと考えております。

3点目の1つ目につきましては、駅北エリアだけではなく、市全体としてSDGsの理念を意識し、官民ともに取り組んでいく必要があると考えております。

2つ目と3つ目につきましては、多様な人々が主体的に様々な取組にチャレンジすることにより、まちの魅力を高め、自然と人々が集まるまちづくりを進めていく必要があると考えております。

6番目の1点目につきましては、現時点では具体的な計画はございませんが、駅南エリアは駅周辺としての魅力づくりも必要なエリアと捉えております。

2点目につきましては、鉄道に乗ることが目的となるような取組について、地域や鉄道事業者と検討していきたいと考えております。

3点目につきましては、近年、写真や動画によるSNSを活用したプロモーションが多く行われていることから、情報発信ツールの一つとして検討してまいります。

4点目につきましては、簡単ではありませんが、大学等のサテライトキャンパス誘致につなげたいと考えて、取り組んでまいります。

5点目につきましては、現在、観光協会が窓口となり、観光、体験、宿泊施設など関係者と連携しながら情報発信や受入れ等を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

それでは、2回目の質問よろしくお願いいたします。

まず1番の（1）不妊症・不育症治療の支援拡充についてであります。

今ほども国の動きに合わせた形で市も対応されるということなのですが、ただ、国の制度が確立するまでに少し時間がかかるかなと思っておりまして、その間もできれば市のほうで少し拡充をしていただければなという思いで今回質問してるんですが、その辺具体的な対応とかできるものでしょうか、いかがなもんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

市長答弁のとおり、国では助成金拡充、また保険適用などが今議論されていて、来年から助成金が拡充されるというような見込みだということを知っております。妊娠を望む方が、望みをかなえられるように支援していくというのが当然のことだと思っております。現段階では具体的なことは申し上げられませんが、市として何ができるか検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

次に、（2）の出産一時金の実態に合わせた対応についてであります。

ちょっと金額を調べますと、国民健康保険中央会の妊婦合計負担額の平均値では、平成28年度の新潟県は49万6,624円で、ちなみに27年度は48万9,325円、このときはまだ50万を超えてないということですが、全国平均を見ますと平成28年度が50万5,759円、平成27年度が49万9,615円となっております。いかにも50万円とするのが妥当なラインだというふうに思っております。

これにつきましても、先ほど国の動きということだったんですが、これについても市独自で対応するということなく、それを待つという形でよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほどの出産一時金、これについて市の裁量でどうこうできるというのは、国民健康保険だというふうに認識しております。今のところは国が示す基準額42万円で、今後についても国が示す基準額で継続したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

だからというわけではないんですが、今度（3）番の子ども誕生祝い事業の拡充についてであります。

これも今年度に関しては、既にもう5万円の対応をされてるということなんですけども、今後やはり今のお子さんを産む環境だとか、先ほど滝川議員のほうからも出産というのがまちづくりの上でも基盤になることだということもおっしゃっていたんで、そういった意味も含めて糸魚川市としてはゼロ歳から18歳、また子育て日本一という目標を掲げてやっとするわけなんで、財政的には厳しいのは重々分かっておるんですが、それぐらいここにお金をかけていくんだというそういう思いで5万円にしていってらどうかということなんですけども、再度、担当課で、もしできない理由があるのであればその辺もうちょっと詳しく説明をいただければなと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

おっしゃるとおり国が定額給付金の基準日を4月27日までというふうなことで設けたために、28日以降対象外となるケースの方については、お祝い事業の拡充によって今対応しているところであります。来年度の継続については、今現在、検討をしているところでご理解いただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

検討していただけるということで、少し前にずったかなというふうに思っております。

次、（4）番でございます。特別定額給付金の対象外となった新生児への給付についてであります。

これは今回7万4,000円とさせていただいたのが、本来であれば1人10万円の形で言えば分かりやすいんですが、今回、糸魚川市は先んじて2万6,000円分、しかも地域経済のことを考えて商品券ということで対応していただいております。そこをちょうど引いて7万4,000円ということで、しかもこれも地域経済のことを考えれば、やはり商品券のほうがよろしいかなということで、あえて提案させていただいたんですが、このコロナ禍の大変な中、誕生してくださったお子さん、また、その家族のことを考えると、やっぱり私はこの第3波という流れが来たときに、これはやっぱり手厚く迎え入れてあげなきゃいけないんじゃないかなと、つくづく思っているんですよ。さらに今、G o T oキャンペーンだとかいろいろございますが、この第3波の流れ、今、毎日毎日ニュースでは、過去最高の感染者数が出たとか、重篤者、重症者が出たとかという話を聞いてますと、そういう中で生まれてきてくださった子供、またその家族というものをもうちょっと暖かく支援してあげてもいいんじゃないかと思うんですが、いま一度、それもできない理由があるのであればはっきりと言っていたいただければなと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

議員おっしゃる7万4,000円の追加給付については、今のところ考えておりません。

ただ、今ほどおっしゃる第3波と言われているような状況にあって、今も声を聞いておりますが、妊娠届や出生届の際に子育て世代の声を聞く中で、適時適切な支援はしていかなければいけないと考えております。そういった声を聞く中では、具体的には里帰り出産ができなくなって不安だというような方もいらっしゃるって、産前産後サポート事業を提案したというような例もございます。そういったところ含めて検討していかなければいけないというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

直接は関係ないんですが、全国の今回のボーナスの額もちょうど10万円ぐらいなんか減額したとかというニュースもございますので、私、諦めてないもんですから、もう少しまた検討に検討を重ねていただければなど、これは要望にしときます。よろしく願いいたします。

次、大きい2番行きます。糸魚川市公共施設等総合管理指針のスポーツ施設についてであります。

能生体育館のほうは、今ほどちょっと私、聞き漏らしたんですが、ギャラリーの衝撃吸収材がもう既にあるような答弁だったかなと思うんですが、それは間違いないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

穂苅生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苅 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅 真君）

お答えいたします。

先ほど市長の答弁でもございましたように体育館の床材と同等の吸収材を使用しているということで、体育館につきましては、工業規格で基準が定められておりまして、その推奨値の内ということで、なっておりますことから、このまま、そのままの状態で使用していただきたいというものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

何で能生体育館にという声を上げたかといいますのは、能生地域は陸協ですがあつたり、県縦断駅伝だとか、あといろんな相撲もそうですし、スポーツに非常に今力入れております。

ただ、けがをされるとせっかくのそういった成果が出なくなるという心配もあったので、あえて今回は、ギャラリーの修繕ということを上げさせてもらいました。間違いがなければ、それで大丈夫だと言うのであれば、私はそれで結構かと思いますが、とにかくけがをされないように頑張りたいなど。

次、（2）能生球場についてであります。



能生中学校では、野球部が昨年、オンヨネカップ新潟県大会で準優勝をして、市長のほうにも報告が上がったというふうに聞いておりますし、また、今年もベスト8まで同大会で行ってると。野球が、人数は少なくなってきたんですけど、一生懸命頑張ってる。

ただ、内野のグラウンド整備だとかすごく時間がかかるというのと、レフト側ですかね。何に雨が降ったりすると水はけが悪くて、ちょっとたまって、水抜き作業が結構時間かかるかというふうに聞いております。

そういったところは、グラウンドの造りを私、詳しくは分かりませんが、ある程度、土を取ってあげて、また新しい土を入れて整備できるのであれば、ちょっと早急にやってあげてほしいなと思うんですが、その辺は技術的・金銭的にそんなにかかるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

技術的にはと申しますと、下に例えば水がたまるのを排水する施設ですとかそういうものを入れないと、根本的な問題の解決にはならないと思っております。そこにつきましては、多額の費用がかかるということでもなかなか難しいのかなということと、能生の球場につきましては、施設の管理運営指針によりまして、現在の機能を維持・保全するという形の施設の一つとなっておりますことから、定期的な土等の入替え等は考えさせていただいておりますが、根本的な解決をするというような工事のことについては、今のところ考えておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

そうなんです。だから、この指針には能生球場の改修だとか抜本的なものがないんですよ。だから、今使っているから、そこを急場しのぎじゃないですけども、そういう意味で直してほしいという、そういう理屈なんです。計画ないでしょう、だってここには、出てないんですよ。だから言ってるんです。その辺もう一度考えてもらいたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

そのところにつきましては、市長答弁でもございましたように、状況に応じて土・砂等を入れ替えたり、少しずつといたしますか保全ができるように対応してまいりたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

次のトイレの洋式化もそうですし、グラウンドの外側の通路もそうなんですが、そんなにお金かからないと思うし、今一生懸命練習している子供たちのこととか考えると、今すぐやってあげることが、私はベターだと思っています。だから、お金のこととかいろいろあるでしょうけども、ぜひ前向きに検討していただきたい。また、本当に地域の声も聞いていった上での対応でよろしいかと思うんですが、その辺また地元の使ってる方の声を聞きながら相談に乗ってあげていただきたいんですけど、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

実際、使用している施設でございます。利用に支障のないように必要最低限の修繕・整備はしていきたいというふうに思います。

また、野球関係者等の意見は、当然伺いながら進めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひ最低限であっても少しでも環境整備、よろしく願いいたします。

次に、（3）シーサイドバレースキー場の今後についてであります。

時間もあれなんですけど、シーサイドバレースキー場は、本当に昨年度はゼロ稼働ということで、私もびっくりはしました。

それで、ちょっとうがった見方になるかもしれませんが、糸魚川市の全体感で物を考えると、スキー場というのは雪が降って、やっと稼働する施設であります。除雪という問題もあって、除雪は雪が降らなければ、そんなにお金、待機料といろいろかかるんですけど、稼働しなければそれほどかからない。糸魚川市という雪国の自治体として、このスキー場と除雪費というものを見比べた関係の中でスキー場というのはお金かかるという見られ方もしますけども、雪国だからこそできる施設でもあるわけですから、そういったちょっとトータルで物事を見ながら、除雪も大事、スキー場も大事という形で、今後はスキー場の在り方も考えてもらいたいんですね。ちょっとお客さんが入らないから、もう要らないわと1回潰してしまうと、もう二度と造ることができないと私思っております。

ただ、その代わり、さっきの借地代、もし1,000万円が会社の負担でなるとなるとやりにくいということであれば、そこはしっかり面倒見るよと。その代わり会社としていろんな面白い取組をやってもらって、元気のあるところを見せてくれといった、そういう考えを一致させた動きをぜひしてもらいたんですけども、そういうちょっと大ざっぱな話をしてるんですが、その辺の考え方、方

向性についてはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員おっしゃるとおり、スキー場の営業と除雪の経費につきましては、相反するような感じになっております。市内のスキー場につきましては、交流人口の増大を図り、地域振興及び地場産業の振興、並びに市民の健康増進、体育の向上に寄与するべく設置しとるものでありまして、それらのバランスを取りながら進めていく必要があるというふうに思っております。

ただ、シーサイドバレースキー場につきましては、ファミリー層のスキー場の誘客はもとより、暖冬小雪が続いておりますので、それ以外で数年で入込客を確保することが課題となっております。これまでもバイクのイベントですとか、パラグライダー、キャンプ、キャンプ場、バギーコースなどのアクティビティの充実に向けて取り組んでるところでありまして、ホワイトクリフにつきましても、新たな取組として教育旅行ですとかワーケーションなどの活用方法についても、模索をしているところであります。

また、借地部分につきましても、本来、市との契約にすることが望ましいと考えておりますが、相手方のある話でもありますので、その辺は慎重に進める必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

そこで、さっきの私の発言だと、何かスキー場が頑張っていないみたいにもし受け止められたらちょっと心外なので、非常に頑張っていると思っております。

ただ、これまでのやり方を踏襲したやり方で来ているものですから、単純に利用者が減れば、売上げも減るといふ、ただその平行線であって来るとおもいます。

そこで、今回は邪道って、自治体がやると邪道って言われるかもしれませんが、あえてそのキャラクター戦略というものを言わせていただいた理由は、ポケモンといっても、私の中ではポケモンの中でピカチュウというキャラクターがあるんですけども、横浜市ですか、ピカチュウ大量発生というイベントがございまして、大きな着ぐるみのピカチュウが何百体かな、行列で歩くようなイベントがあるんです。

何でそんなことを言うかという、スキー場だけの魅力でお客さんを集めるのではなくて、こういったキャラクター、今日は田原議員のほうでも宝石の国の話をされました。ジオパークですからね、宝石の国のキャラクターが使えるのであれば、それも全然オーケーなんですけども。そういった子供、もしくはキャラクターが好きな人も、このスキー場へ来て楽しめる。もっと大事なのが、通年で楽しめるエリア、そういったコンセプトでこのスキー場を盛り上げていく。いや著作権高いからもうからないんだ。もうからなくて結構だと思います。とんとんでいいと思います。そういったところを綿密に計算し、そのキャラクターの会社と本当にじっくり話し込んでいただいて。

ついこないだも小千谷市のほうでポケモンのマンホール蓋を設置する、ポケ蓋というんですけど

も。以前、私もこの場で提案させていただいたものですが、あれだけでもテレビが報道をかけてくれて、あれはゲームの中ではポケストップとあって、あそこに行くとモンスターが出てきて、ゲームで捕れるんですけども。

そういったいろんな仕組みを駆使して、シーサイドバレースキー場、名前変えてもいいと思いますよ、ポケモンスキー場でもいいと思います。それぐらいのことをして、やっぱり利用者を増やすというところに食欲にやってもらいたいんですよ。今のままだと駄目なの、みんな多分分かってると思うんですよ。その大きな変化をこの機会にぜひチャレンジしていただきたいんですね。そのための指定管理者という自治体と離れた方が経営するわけですから。でも後方支援は、もう自治体でどんどんやってもらって、安心して使ってもらえる施設にすべきだと思うんですよ。そのくらいちょっと考えていただきたいんですが。話が大き過ぎますかね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ご提言のとおり、キャラクター戦略はファンの層も広くて有効な誘客手段の一つだというふうに考えております。今言われたポケ蓋につきましても、会社にアプローチはしましたが、今新規の申込みがストップしとるということで、受付の再開を待っているところであります。

また、ポケモンGoにつきましても、市内の2つのスキー場ともポケストップとして登録されるということでもありまして、今後とも今ご提言いただいた部分も含めまして、キャラクターの活用について誘客に結びつくように研究してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ほかのスキー場では、コスプレ大会とかとあって、アニメのキャラクターで来て、ゲレンデを滑ったりするとかという企画をやっているところもあるみたいですけど、御風さんでもいいですし、ジオまるはちょっとスキーは大変かなとは思いますが、ちょっとそういうそりでもいいと思うんですが、何かそういう遊び心のある日を設定していただいて、まず試験的にそういったもので子供たちが来てくれるかどうか、そういったところも探っていただきたいと思います。これは要望にしまするので、ぜひご検討ください。

次、大きな3番行きます。生活弱者の支援拡充であります。

私、今回、何で除雪とか除草とか買物、通院、制度利用というのを上げたかといいますと、書いてあるので、超高齢化に備えてそういった窓口がワンストップでできるんだよというふうにしていただきたいんですね。特に高齢者の方は、今この除雪であるとか除草についてすごく不安を持っております。そういった対応、先ほどは一括包括センターでしたか対応するというんですけど、具体的には、結局は市役所の窓口で対応するという形でよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

先ほど市長が申しあげましたものにつきましては、市内に5つあります地域包括支援センター、こちらのほうで高齢者の相談を受け付けるというものであります。今ほど議員おっしゃいます除雪であるとか除草につきましては、個別の課題でありながら地域全体の課題として捉えてる部分もあります。そういった中で現在、糸魚川市では、地域で助け合う、支え合う、推進事業も実施しておりますので、そういった仕組みをさらに進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

そこで②番のほうに行くんですけど、私、ここ異業種というふうに書いてしまっちゃったんですけども、生活支援会社という公社みたいなものができて、地域内で商品券やデジタル通貨で高齢者の方、また生活弱者の方を支えるような仕組みができないかなと思ったのは、例えば気持ちがあつて、高校生とか中学生でも何かお手伝いできることがあるかなとか、何かそういうものにお金となるとなかなか難しいんですけど、地域内通貨というんですかね、そういったものを導入して、そういう先ほどの看護とか介護とかという仕事にもつながるんですけども、そういう機会を何かシステム化してもらって、ちゃんと大人が管理する中で子供たちや高校生、大学生がそういったお手伝いができるような仕組みができないかなと思ったんですが、そういったことって過去に検討したことがあるのか。また、そういう可能性みたいなものを研究する余地があるのか、その辺をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

この件につきましては、これまで議論したかどうかというのはちょっと承知しておりませんが、今後、今デジタル社会になってきておりますんで、キャッシュレス対応とかでいろんな観点から、こういう地域限定通貨等の取組も考えられるのではないかというふうに思っておりますので、また今後の研究課題として捉えさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひ研究してみてください。大規模にはできないかもしれませんが、その地域とかスポット的にそういった地域内通貨でボランティア的なアルバイトみたいな形が可能かと思っておりますので、研究してください。

あと除草についてなんですけども、こないだ少しテレビを見てますと、生きてるヤギを使って除

草するという、レンタル1日か1カ月か5,000円で、お水と塩を与えて、休憩する小屋を用意すれば、傾斜地とかの草を食んでくれるという、面白いなと思ったんですが、そういったところが農福連携事業でヤギさんを飼って、高齢者のいる周辺に少し散歩させて草を食んでもらう。

ただ、難点もあるらしくて、ふんの臭いだとかそういった問題もあるらしいんですが、ちょっとこういうところも研究して、それが地域の名物になれば私いいかなとは思ってるんですが、そういった発想とかというのを取り入れることは、また、民間とちょっと研究してみる余地というのはあるものなんでしょうか、いかがですか。現にそういうレンタルでやってるそうです。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今、ヤギを飼って、そのヤギによって草を処分する。それが高齢者の生活支援とか、そういう観点とは若干ずれるんですが、同様な検討を市長のほうからもするようにということは承っておるんですが、なかなか指示はいただいておりますので、ちゃんと仕事としてやっていかなきゃいけないんですけど、今まだちょっと進んでいないというような現状でございます。すみません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

個人的には、市長と考えが一緒というのは嬉しいんですけども。ぜひぜひ研究していただければなど。

もう一つ理由があって、今、脱炭素社会ということで、やはりエンジンとかそういうものではなくて、脱炭素社会ということでそういったものにも加味できるのかなということもありますので、ぜひそういった角度からもSDGsであるとかそういうところにも通じるので、ぜひご検討いただきたいなと思います。

次に、買物についてでありますけども、糸魚川市自体、買物の移動販売とかに支援していただけてるんですが、ネット販売とかオンラインで買物する方式とか、こういったものを生活弱者の方に紹介するとか、配達してもらえるよとかと、こういう取組というのはやってるものなんでしょうか。あくまでも移動販売のみなものでしょうか。

なぜかという、やはり生活弱者とか高齢者の方、こういうものを扱う手前で心配をしてしまうというか。そこをやっぱり会社であるとか行政がちゃんと中継ぎをしてやって、本当に天気の良いときなんかは、こういうの頼んだほうがいいんだよというぐらいの、そういうサービスとか相談相手というか、なってもらったら、コロナ禍でもありますからね、むやみに出歩いてって感染するよりは、こういったものを利用するというタイミング的によろしいかと思うんですが、そういったのを官民連携でちょっとやっていただきたいんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

高齢者がインターネット等を使いました買物等につきましては、これまで特別導入した事例はございません。

その一方で、高齢者であれば重い荷物が持てないとか、例えば遠くまで車がなくていけないといった場合に、配達をしてくれる店のリスト、そういったものを過去に糸魚川市としまして作成いたしまして、各世帯に配付したといったような事例があります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ちょっと時間の関係があって、少し途中飛ばします。

（４）の認知症による徘徊対策についてであります。徘徊センサーのほうは、導入していただいて、利用もあるということで確認できました。この２次元QRコードつきシールというがございまして、要は無料でやってるところもありますし、有料でやってるところもあるんですが、要はQRコードをどこかかばんでも服でも何かこう貼って、どこか行方不明になったときにスマートフォンでそれをかざすと、住所というか相手先の情報が分かるというもので、即連絡が入って保護できるというものなんです。市内まだ取組していないかなと思ったので、そんなにお金もかからないのかなと思ってまして、その辺ちょっと導入を検討していただきたいんですが、再度担当課のほうでご回答いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回ご質問いただきまして、こちらの２次元バーコードにつきまして改めて調べさせていただきました。帽子であるとか、つえであるとか、服であるとか、そういうところに縫いつけるような形で、既に導入しております徘徊センサーとはまた違ったメリット等があるのかなというように感じております。

そういった中でも、例えば徘徊している方が、そのバーコードが何なんだろうかといったことを周知をするということも一つの課題であるのかなと思っておりますし、費用面につきましても、それぞれ全国的にも導入してる自治体がありますので、そういった他の自治体の導入事例を研究しながら調査してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

すみません、あと3分ちょっとなんで、全部飛ばして最後の、すみません、最後の番号6番の産官学による新しい観光の魅力で、しかもそのまた最後のほうで、（4）番の能生地域の海洋系サテライトキャンパス化についてであります。

いろいろ難しい課題は分かっているんですが、やっぱり今、海洋高校のいろんな連携、また、市長もいろんなところに交渉していただいて、大学連携とか、本当に私は順調に築いてきていただいているなと思っております。

で、ここが勝負どころで、やはり糸魚川市に学生なり、また教授陣なりが来てもらう、そういうエリア。新幹線の駅もあって、いろんな自然環境があって、フィールドワークもできる環境も整っているということで、ぜひここは、もう一步積極的に地域を活性化させるためにも何か施設、また、協定もたくさんつくっていただいて。とにかく年中通して誰か彼か関係者が、この能生地域で教鞭を執っていると、学生が来て、町なかを歩いているいろんな勉強をしているとか、そういった風景を描きながら取り組んでいただきたいんですけども、素材はほとんどそろってるかなと、私は勝手に思っております。後は人間力というか、こちらのやる気を示していけば、島根県の海士町ですか、ああいった成功事例になるかと思しますので、ぜひ力強く、コロナではありますけども、ひるむことなく、この推進をぜひやっていただきたい。また、このオンライン等でやはりそういった授業もできるわけですから、ぜひその辺もパイプを太くしていただきたいんですけども、お願いになるんですけども、その辺の考え、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘のように非常に、高校までは当市にございます。しかし、やはり大学というのは、これは保坂議員のみならずいろんな議員から指摘いただいてとるわけでありまして、市民の皆様からもやっぱり切望されておる教育施設だろうと思っております。そういう中で、今、非常にいろんな大学と連携をさせていただいたり、今いろんな高校、交換授業などもいろいろさせていただいておる部分があります。そういうことを考えたときに、やはり本当にキャンパスは必要な中で、いま一つやはり一押ししなくちゃいけないところに来てると、私も感じております。

そんなことで、やはりそういったところをどこのキャンパスになるのか分かりませんが、やはり特化して、その特徴を、また、そういった特徴のあるというのをもうちょっと光らせていきたいと思っておりますので、この厳しい環境ではありますけども、取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

続きまして、その下の（5）番の世界ジオパーク、体験観光ビューローと勝手に名前をつけてますけど、創設です。



これは何が言いたいかというと、糸魚川市にある観光施設等、レジャー施設全部なんですけど、今いろんな各指定管理になって、ばらばらで管理してるんですけども、私はもうそろそろ一括管理で通年雇用できるようなスタッフ、で、若い人にどんどん入ってきてもらって、インストラクターやってもらい、ガイドをやってもらい、また、子供たちの相手になってあげたりするような、そういった構想を持って、少しちょっと考えてもらいたいですね。そういったものがあれば、先ほどの大学連携のときの学生に来てもらったときの、そういうフィールドワークのときにも一緒にやってもらうとか、キャリアを上げてもらうとか、そういう考え方があるものですから、単なる観光というばかりではなく、やっぱり子供たちを受け入れていく環境づくりとしてもこういった、うまく言えないんですけども、ここは観光ビューローという言い方してますけども、そういった一括で市内の施設を管理していく人材も育てていくという面もあるので、そういったところをぜひ検討していただきたいんですが、これも何か形を変えていかないと、今までどおりだと今までどおりのじり貧になっていくかなと思いますので、ぜひちょっと検討していただきたいんですが、その辺考えいかなうものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

全国では、この観光ビューローですとか、様々な形で観光施設の管理を行っているケースが存在しております。現在当市では、観光協会が窓口となって、一元的な対応を行っているところでありますけども、このスタッフの通年雇用に当たりましては、一定の事業規模等が必要でありますので、今後の検討課題とさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

苦言なんですけども、じり貧になって、全部なくなってからではどうしようもないんで、今がチャンスかと思っておりますので、ぜひ研究をよろしくお願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦勞さまでした。

〈午後4時13分 延会〉